

<札幌>第34回 紀元節復活反対 2・11 道民集会

天皇制と『日の丸・君が代』

・講師：野田正彰 関西学院大学教授

・出席者：約400名

野田講師は「天皇制と『日の丸・君が代』」という演題に添ってストレートに熱弁を振るわず、訥弁^{とつべん}な語り口でしたが、大学教授というより精神科医としての切り口に私としては新鮮さを感じました。私達の運動、活動が表層に留まり、心情の琴線に触れず、気質・心情を変えられずにいる事を指摘されました。

講師は東南アジア諸国、ヨーロッパ諸国の戦跡を巡り、戦争の悲劇を思い、研究に携わったものの、日本のこの問題を疎かにしていたと気づいたとの事。以来、日本人の気質、心情の研究に取り組んでいるとの事。戦争するには国が入手した情報を都合よく駆使して、国民に危機感を煽らせ、戦争止むなしの空気を醸^{かち}させるとの事。

西ドイツ政府は中高生の平和教育にアウシュビッツ記念館で日中は草^{むし}筆り、清掃をし、夜はアウシュビッツについて学習、討議という体験学習を積極的に勧めているとの事です。

日本では戦争の悲劇に蓋をし、ましてや加害者であった事実はひた隠しにしています。戦争の出来ない国とするには政府のアジテーションに踊らされない人々を殖やす事です。私共自身の気質、心情を変えつつ、困難であっても、関係する人々の気質、心情を変えて行く営みを続ける必要を痛感させられた次第です。